

こどもの神経発達障害は増えている?! ~新生児医療の影響は?~

市川 剛

宇都宮脳脊髄センター シンフォニー病院 小児科

こどもの神経発達障害は、近年その著明な増加が報告されています。診断率の上昇なども一因ではとの議論もありますが、環境因子の影響、遺伝因子と環境因子との相互作用の影響なども含め、真の増加が危惧されています。

ところで、早産、低出生体重での出生は神経発達障害のリスクを上昇させることが報告されています。また、近年の新生児医療の発達で極低出生体重児(出生体重 1500g)や超低出生体重児(出生体重 1000g未満)の生存率が急激に向上しています。一方で、新生児医療の発達がどの程度、神経発達障害の頻度や質に影響を与えたかはまだ定かではありません。

今回、①文献的考察を含め、現状の知見を整理できればと考えています。また、新生児医療の現場での経験から②どのタイミングで、どのような児がリスクを抱えていそうか、またどのタイミングでその結果を認識できるのかなどを共有できればと考えています。

今後、知見が蓄積され、早期介入、そして理想的には先制医療、予防医療の糸口がみつければと願ってやみません。